

## 議員定数と報酬に関する特別委員会 第1分科会報告

### ① 適当と考える委員会数から考える

#### ○ 第1分科会としての方向性

##### 【委員会数 3～4】

現状の3委員会で十分審査・調査・議論・討論ができていることなどから、3委員会との意見が多く出されているが、行政の組織が増加し多様化、また、内部が細分化されていることから細かい視点にまで立てるように深い審査にあたるためには委員会を細分化して4委員会も望ましいとの意見も出されている。

##### ・ 委員会数3の考え

現状の3委員会で十分審査・調査・議論・討論ができている。現状より定数（総数）の増員が見込めないのであれば、3委員会が最も適正である。また、3委員会とした場合は、委員会間の所管の偏りが課題である。

##### ・ 委員会数4の考え

行政の組織が増加し多様化、また、内部が細分化されていることから、細かい視点にまで立ち、深い審査にあたるためには、委員会を細分化する。基本条例制定前と後では、議会機能は向上しており、一人一人の審議に対する意識も向上しているはず。各自が、それらを更に追求することで、少ない人数でも十分可能ではないかと考える。

#### ○ 結論としなかった考えの理由

##### 【委員会数 2】

##### ・ 委員会数2の考え

各部署の中でも共有する部分がかなりあることや、2委員会構成であれば、任期中に両方の委員会に携わることができ、議員資質の向上に繋がるとの意見があったが、深く審議・審査をするためには、2委員会では、所管する範囲が広すぎて、会期中に出される議案の数が膨大となることや、課題に対応できなかつたりすることも考えられる。

2常任委員会にして、特別委員会を設置するのであれば、可能性ではあるが、今まで行ってきたことと整合がとれない。また、調査機能や聴取能力にも効率性が見出せない。

### ② 適当と考える委員数から考える

#### 分科会の方向性は集約できなかった

##### 【委員数 6人～9人】

委員数が6人以下の体制では、重要な議会スキルを充実させることが困難であることから6人以上は必要である。現状の7、8人という意見が多く出されているが、9人で深堀をして、追及や提言ができる体制をつくるべきであるとの意見もあった。

・ 6人の考え

議員個々の意識は高まっているはずなので、4 常任委員会であれば、最低 6 人でもよい。

・ 7人の考え

現状の 7、8 人は、経験値もあり、深い議論に資することのできる人数である。常任委員会において、採決となった際は奇数であることが望ましい。副委員長が参画して討議すればある程度充実した討議ができる。

・ 8人の考え

現状の 7、8 人体制は、経験値もあり、深い議論に資することのできる人数である。委員会は、議案の審査・審議・委員会討議の議論を得て議決を負う責任が課せられており、多様な議員がいることで活発な議論が成り立つことから 8 名が最適な人数である。

・ 9人の考え

9 人で深堀をして、追及や提言ができる体制をつくるべきである。ただし、9 人は、2 委員会体制が前提であり、2 委員会に対しては、調査機能や聴取能力にも効率性が見出せないなどの課題は多い。

### ③ 適当と考える定数（総数）から考える

【定数 18 人・21 人・22 人・24 人】

分科会の方向性は集約できなかったため、各意見を列記する。

- ・ 18 人 2 常任委員会 × 9 人
- ・ 21 人 3 常任委員会 × 7 人
- ・ 22 人 3 常任委員会 × 7 人 + 議長
- ・ 24 人 現状維持、4 常任委員会 × 6 人

・ 18人の考え

現状の体制に対して、削減するべきとの市民からの要望も出ている。各部署の中でも共有する部分があることや、山積する課題に対応するためには、通年議会で 2 委員会構成とし、9 人で深堀をして、追及や提言をできる体制をつくるべきである。

・ 21人の考え

現状 2 委員会においては、7 人で運営をしており、経験値もある。

・ 22人の考え

現状 2 委員会においては、7 人で運営をしており、経験値もある。議長を委員会に所属させず、全体を俯瞰する立場であっても良いのではないかと。議長の中立公平性を念頭に置く必要があると考えると総数が偶数である必要がある。

・ 24人の考え

山積する地域の様々な課題に対応するためには、地域の実情や現状を知る議員が必要と考える。また、現状における運営を踏襲し、議会としての中立公平性を保持する方がメリットは大きい。議長の中立公平性を念頭に置く必要があると考えると総数が偶数である必要がある。行政の組織が増加し多様化、内部が細分化されていることから、細かい視点にまで立てるように、深い審査にあたるためには、委員会を細分化し、4委員会とした場合は、議員の資質も向上している状況が前提であるが、最低6人体制でも可能である。

○定数削減に関する意見

- ・減らすのであれば、その減らした部分を何かで担保しないと地域の理解は得られない。
- ・近年、地域別意見交換会でも、議員定数を減らさないようにして欲しいという意見を聴いている。
- ・いろいろな地域から議員が出ることによって、日本一広いこの地域の中で、しっかりといろいろな声を汲み取ることができる。
- ・特に、緊急時や災害時において、各地域出身の市会議員が点在しているといった部分からも連携した役割を果たすことができる。

○意見交換の中から

- ・市民からの意見で削減するとなると、削減し続けなければいけなくなり、本当に大事な市民の暮らしと生活を担保するためにこれだけの議員数が必要ということを訴えていかなければいけない。